

# 保育と基督教の Holy Union

## ——関西学院短期大学

関西学院短期大学副学長・教授・宗教主事 小見 のぞみ

総合学園である関西学院における短期大学について語ろうとすると、2024年に関西学院短期大学と名称変更する前の聖和短期大学、つまり聖和と関西学院の関係をふまえる必要がでてきます。そして、その関わりの歴史はとて長く深く深いものです。

現在の西宮聖和キャンパスは、もともとアメリカン・ボードが建てた神戸女子神学校が1932年に開いた校地ですが、この学校は当時、神戸の地で廃校寸前の状態でした。それが、「永久的位置は、神戸女学院及び関西学院の附近たること」を条件のひとつとして存続することになり、岡田山へ移転したのです。つまり関西学院が1929年に原田の森から上ヶ原へと移転していなければ、「附近たる」岡田山に神戸女子神学校はありませんでした。そしてこの地に神戸女子神学校がなければ、後に戦争で校地を追われた大阪のランバス女学院が移転してきて、聖なる和合(Holy Union)を遂げ、聖和女子学院が生まれることもなかったわけです。

そもそも、聖和の3つの源流のひとつ、ランバス記念伝道女学校は、関西学院の創立者ウォルター・ラッセル・ランバスの母、メアリー・イザベラ・ランバスが、ランバスファミリーの住まいであった山2番館を教室として開放したところから始められた学校です。そしてメアリーが亡くなった後も、大阪へ移転してからも「ランバス」の名を冠した女性たちのための学校は、関西学院の人たちの協力を得て教育をすすめていきました。



2列目左から5人目がウォルター、2人挟んでJ. C. C. ニュートン

この写真は1907年、日本のメソヂスト系三派の合同に際し、米国南メソヂスト監督教会の全権大使としてウォルターが来日した折、亡き母メアリーの学校を訪れている様子です。ウォルターはずっと、貧しい伝道女学校をポケッ

トマネーで支え続けていました。

このように関西学院は、聖和の存続と2009年の合併、学校法人聖和大学の解散に至る128年の歴史にとって、初めから終わりまで切っても切れない関係にありました。その結びつきの詳細は、『関西学院史紀要』(第22号、2016年)をご覧ください。ここからは短大の特徴である、もうひとつの結びつきについて述べたいと思います。

本学は、保育科のみの短期大学で、基督教保育を学ぶことができる保育者養成校です。もちろん基督教保育を掲げる養成校は他にもありますが、関西学院短期大学のユニークネスは、歴史的、継続的になされてきた保育と基督教のHoly Union、すなわち、保育を基督教神学や聖なるものとの結びつきのなかでとらえ、行ってきたことだとわたしは考えています。

本学の前身である聖和の始まりは、先述のように神戸女子神学校であり、パイブルウーマンを養成するランバス記念伝道女学校でした。また、幼稚園と保育者養成のルーツは、女性宣教師(N. B. ゲーンズ)が設立した広島女学校附属幼稚園と保姆師範科です。JKU (Japan Kindergarten Union: 1906年に宣教師らによってつくられた基督教保育の園と養成校の全国組織)の年次報告書には、大阪のランバス女学院が保育専修部と神学部二つの学部を有していることの重要性が述べられています。片方では、なし得ないことがある……と。

この伝統は戦争中、全国の女子神学校の併合に伴い、神学部を廃部したことにより、いったん中断されますが、戦後、神戸女子神学校側からの要請により宗教教育科の設置という不思議な形で聖和に引き継がれていきました。こうして聖和大学は幼児教育・保育系の学科だけでなく、基督教教育学科を有する大学として歩んだのです(『アメリカン・ボードと日本の基督教主義学校』キリスト新聞社、2026年、第6章「神戸女子神学校」参照)。

その後合併を経て、今こうして神学部がある関西学院という総合学園のなかに短期大学保育科が存在していることに、計り知れない意味を感じています。互いに結び合う和合の源は、イエス・キリストにあることを「聖和」の名は表してきました。分断や切り捨てが広がる社会のなかで、多様な学校種と人々が集うなかで、関西学院をひとつ(の総合学園)にするのは、基督教主義教育という点においてではないでしょうか。(こみ のぞみ)